

# トイレそうじ【中学年４ - ( ２ )】

## - 生活と結びつけて考える指導 -

( １ ) 主題名 働くことの気持ちよさ〔４ - ( ２ )〕 関連項目 〔４ - ( ４ )〕

( ２ ) ねらい 働くことの喜びを知り，進んで働こうとする心情を育てる。

( ３ ) 資料名 「トイレそうじ」

( ４ ) 授業の展開例

	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	留 意 点
導 入	１ トイレそうじについて，発表する。	トイレそうじは好きですか。 ・きたないから好きじゃない。 ・ぞうきんがいや。 ・あまりやりたくない。	トイレそうじについて思い出し，資料への関連付けをする。 いろいろなそうじ場所の写真を見せる。
展   開	２ 資料を読み，話し合う。	トイレそうじをしながら，美香はどんなことを思っているのでしょうか。 ・トイレそうじは，いやだな。 ・きたないし，たいへんだな。  ４年生がそうじをしているのを見て，どんなことを考えているのでしょうか。 ・おばあちゃんがいていたみたいに，ぞうきんで便器をこすっている。 ・みんな一生けん命そうじをしているな。	トイレそうじの経験を思い起こしながら，主人公の心情に共感させる。
	３ 本気でトイレそうじをした後の主人公の気持ちを考える。	ぴかぴかになったトイレを見て，美香はどんなことを思ったのでしょうか。 ・トイレをきれいにすると，気持ちがいいな。 ・きっとこの便器を使う人は喜んでくれるだろうな。 ・また，がんばるぞ。	ふき出しがついたワークシートを配布し，書く活動を取り入れることにより，主人公の気持ちをじっくりと考えられるようにする。
	４ 自分たちの生活を振り返って話し合う。	そうじを一生けん命したことがありますか。その時，どんな気持ちでしたか。 ・トイレではないけど，一生けん命そうじをすると，きれいになるから気持ちよかった。	自分たちの経験を振り返ることで，その時の充実感や喜びに改めて気付くようにさせる。
終 末	５ 教師の話を聞く。	・今度はトイレそうじをがんばってみよう。	今後への意欲を高めることのできる話をする。

## トイレそうじ

三年生になって、トイレそうじをするようになった。

（また、トイレそうじか。）

そう思いながら、美香はトイレに行った。さとしは、いつものように早く来て、ほうきをとっている。

（ずるいなあ。いつもほうきばかりして。）

そう思いながら、ぼうずりを持った。べんきをこするのだが、ひどくこすると、トイレの水がとびちってくる。

「わあ、きたない！」

思わずさけんでしまった。

トイレそうじは、何かと大へんなことが多い。しかも、一年生のとなりのトイレだ。トイレトペーパーのちぎれたのがゆかにころがっていたり、スリッパがバラバラだったり……。とくにいやなのは、うんちなど、流していないときだ。

おばあちゃんに、トイレそうじをしていることを話したら、

「ぞうきんでトイレをこすると、きれいになるよ。」

と教えてくれた。

「うへえ。ぞうきんでトイレをこするの。」

といやがるわたしに、おばあちゃんは、

「トイレを一生けん命そうじをすると、美しい人になるよ。」

と話してくれた。

次の日、そうじの時間にイレットペーパーがないので保けん室に取りに行くと、四年生がトイレそうじをしているのが見えた。なかよしのさちさんがそうじをしている。

「さっちゃん！」

声をかけたが、気がつかないでそうじをつづけている。よく見ると、ぞうきんを持って、べんきをていねいに、何度も何度もみがいている。四年生はだれも話をせず、一人一人が一生けん命そうじをしているのだった。

家に帰って、いっしょに遊んでいたさち子さんに、美香は思いきってたずねてみた。

「今日、すごくきれいにそうじをしていたね。トイレをぞうきんでこすって、いやじゃないの。」

すると、さち子は当たり前のように言った。

「トイレをきれいにすると、スッキリするよ。それにね、ぞうきんについているよこれを見ると、こんなにきれいになるんだなあって思うのよ。」

美香は、すごいなあと感心しながら、明日は本気でトイレそうじを試してみようと思った。

そうじの時間、美香はぞうきんを持ってそうじを始めた。べんきのまわりを力をこめてふくと、よこれがスッキリと取れた。ぞうきんにはよこれがいっぱいついていて、びっくつくりした。上から下へとじゅんに、ていねいにふいていった。ぞうきんでふいた後のトイレは、ピカピカにかがやいていた。

# 活用に生かすための実践報告

## 「トイレそうじ」

### 1 主題の設定

児童にとって身近な「勤労」とは何か。当番活動、係活動、奉仕活動、家の手伝い等たくさんある。小学校中学年の段階では、働くことの楽しさや喜びの体験を積むことによって、力を合わせて仕事をする事の大切さを理解し、進んで働こうとする態度を育てることを目標としている。

本資料では、その中でもどの子も経験したことのある、教師もその姿がよく見える活動として「そうじ」を取り上げた。仕事をする気持ちのよさを中心に扱うことによって、進んで働こうとする意欲を育てたい。

### 2 指導過程の工夫

「トイレ」は、子どもたちにとって身近な場所であるが「きたない」「くさい」というイメージの方が強い。また、「そうじ」についても、当番だから、そうじの時間だからやるといった規則としてのとらえが強い。「トイレそうじ」となると、いやなイメージでとらえる児童はさらに増えるだろう。

その一方でトイレそうじが好きな児童もいる。理由を聞いてみると、トイレをぴかぴかにすることが楽しい、気持ちいいからだという。トイレそうじが好きではないという児童の心の中にも、トイレがきれいな方が気持ちいい、よごれたところが美しくなるとすがすがしいと感じる心がある。そこで、主人公の美香の心情に共感し、寄りそいながら価値を深めていきたい。

### 3 発問の工夫

導入では、美香と同じようにトイレそうじがあまり好きではないと感じている児童の本音を

しっかり出せるような雰囲気づくりをする。こうすることで、主人公を身近にとらえ、より資料に寄りそえと考える。

中心発問では、「ぴかぴかになったトイレを見て、どんなことを思ったのでしょうか」ということを考える。その中で、トイレを汚いという思いを乗り越えていく美香の気持ちを想像しながらそう快感を感じさせたい。

生活を振り返る段階においては、より多くの児童に進んで働くことの気持ちよさ、大切さを感じさせたい。そのためにも、トイレそうじだけにこだわらず、学級、学年などで取り組んだ活動などあれば想起させ、力を合わせて仕事をしたときの楽しさ、喜びを思い出させたい。

### 4 児童の反応（授業後の感想）

・わたしはトイレそうじが1番きらいでした。だけど、みんなの意見を聞くと「そうじをすると、すっきりする。」「ほかの人や、使う人に喜んでほしい。」と言っていて、進んできたないところをそうじしている人もいるということがわかりました。これからきたないところを進んでそうじしてみたいです。

### 5 実践者からの一言

トイレそうじは、児童にとっても教師にとっても自分たちの姿を振り返りやすい。それだけに、学級指導にならないように気を付けたい。

中学年になると、トイレそうじを担当することも出てくる。この資料を動機付けとして扱うこともできるだろう。清そう活動等十分取り組んでいる場合は体験を深める場として活用してもらいたい。

（竹尋小学校 小畠千鶴）